

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	英語の同等比較級と日本語の限定表現 : 「範囲」と「限界」
Author(s)	上野, 貴史; 下内, 充
Citation	大阪女子短期大学紀要 , 23 : 1 - 10
Issue Date	1998-12
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045790">http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045790</a>
Right	
Relation	



# 英語の同等比較級と日本語の限定表現

## — 「範囲」と「限界」 —

上野貴史・下内 充\*

A Comparison of Limitative Expressions in Japanese and English  
— “As ... as” Constructions in English and *suru-kagiri* and *suru-dake* in Japanese—

Takafumi UENO and Mitsuru SHIMOUCHI

It is observed in English composition classes that Japanese students often use idiomatic expressions like “as ... as one can/possible”, “as long as” or “as far as” to translate Japanese limitative phrases *suru-dake* or *suru-kagiri*. But some of the English sentences which are produced using these English expressions are inappropriate.

We compare the English sentences using “as ... as one can/possible” and “as ... as one want/like” with the Japanese adverbial clauses which have *-dake*, and discuss a parallelism seen in the English structure with the comparative of equality and the Japanese clause with *-dake*. We also tried to analyze the English sentences with “unless” and “as far/long as” to know the proper equivalents which correspond to the Japanese adverbial with *-kagiri*, considering such factors as ‘scope’, ‘limit’ and ‘duration’ given by the English verbs employed in the structures.

VERB <i>-kagiri</i>	→	IF S + V
		AS FAR AS S + V
		AS LONG AS S + V
		OTHERS
VERB NOT <i>-kagiri</i>	→	IF S + V NOT
		UNLESS S + V
		AS LONG AS S + V NOT
		OTHERS

### 1. はじめに

日本語で書かれた英語の参考書類は、英語を読む際には大変有用であるが、ここで得た知識を基に英語で文章を書くとなると、同じ文例を使用できるような場合は別として、かなりの困難を要す

る。そこで、和英辞典にある表現に頼り、今度は日本語からそれに対応する（と考えられる）英語表現を、慣用句を中心として利用することになるが、ここにも論理的説明が無く、そこにある例文から適切な表現に至るにはかなりの熟練が必要である。本研究は、日本語と対照しながら英語を書

\* 東海女子短期大学英文学科

く場合に、どこまで論理的に表現し、どこで英語の慣用的表現に依存すべきかという点を重視することにより、大学レベルの英文文の授業において有用となるような発信型の英語参考書を作成する試みとなるものである。

本論では同等比較級の中で扱われる慣用表現である、as long as、as far as、as ... as one can/possible の表す概念を中心に、それに対応する日本語の定訳、「限り」「だけ」との類似点・相違点を考察し、日本語の「範囲」「限界」を英語に訳す場合の規則性などについて考察する。

## 2. 英語の同等比較級

江川(1991: 397)は、asの従属接続詞の用法において「文法的な扱いを別にして意味機能だけを見ると、比較・様態・限定が主要なものである」と指摘した上で、「限定の含みが感じられる」ものとして次のような例文を挙げている。

- (1) His first novel, as I remember, was very favorably received.  
私の記憶では、彼の処女作は非常に評判がよかった。
- (2) The English are not intellectual, as Europeans go.  
ヨーロッパ人としては、英国人は知的ではない。  
このような例文における「限定」の含意は、それぞれ、「私の憶えている限り」、「ヨーロッパ人に関する限り」と訳出することが可能であることから納得できる。さらにasを相関的に用いるas ... asの用法においても「限定」に類似した用法が見られるが、従属節の述部が主節と同じ内容を持つ(ふつう省略される)場合は限定的な意味合いは認められない(3)。また、(4)のように、主節の内容と従属節の内容が対照されている場合も限定・制限的表現とはならない。
- (3) Hearing is just as important as speaking in English conversation.  
英会話では、聞くことが話すことと全く同じくらい大切です。(江川 1991: 168)
- (4) Science can destroy as easily as it can

create.

科学はやすやすと物を作り出せるが、同じようにやすやすと破壊もできる。(江川 1991: 168)

(3)においては、

- a) Hearing is important in English conversation.
- b) Speaking is important in English conversation.

におけるb)の下線部が情報として重複するため、省略されている。また、(4)では比較の対象となっているのが下線の節の内容である。

- a) Science can destroy easily.
- b) Science can create easily.

ところが、次の例文(5)、(6)においては、

- (5) Travel as far as you like. (COD 1982)  
好きなだけ遠くに旅行しなさい。
- (6) You may take as many candies as you want.  
キャンディーはきみの好きなだけ取っていいよ。(山岸 1991: 807)

従属節中のlikeとwantが主節にない新しい情報を提出し、範囲を規定しているため、限界を意識することが可能となる。次の文にはいずれも従属節にcanまたはpossibleが含まれ、能力・可能性の限界が示されている。従属節におけるcanの使用が「限界」の意味表出に直接関係しないことは、canを含む(4)の文の存在から明らかである。

- (7) Pack the cases as tight as possible (= as tight as you can).  
箱はできるだけすき間がないように詰めなさい。(江川 1991: 169)
- (8) In this part of the city, people are as poor as they can be.  
市のこの部分では、人々はこれ以上ないというほど貧しい。(安井 1982: 332)
- (9) Grandpa had taught me to write as much as I could. (Capote 1991: 40)  
おじいさんから教わって、僕はいくらか読み書きができるようになっていた。(村上 1988: 14)

### 3. 英語の限定的表現

Jespersen (1963 : 533) は、「制限」(Restriction) を表す副詞節(従属節)の用法として次のような例文を挙げている。

(10) As far as (So far as) I can see, he cannot be more than thirty.

私の見る限りでは、彼は、30を越えてはいない。

(11) That is all right, so far as I am concerned.

私に関する限り、それで結構です。

(10)、(11)の文は、「限定」または「制限」の表現と見ることができる。また、Zandvoort (1975 : 220) は同等比較級の用法のうち、「制限」(Restriction) を表す用法として、

(12) The Act is good as far as it goes.

その法律自体は悪くはない。

を挙げている。このような「制限」を意識させる副詞節における far の特徴は、主節の動詞と far に意味的關係が見られないことである。例えば(5)や次の(13)では(下線は引用者)、

(13) I traced one good long bus ride north, over mountain after mountain, as far as any bus could go before turning back toward town. (Murakami 1989 : 173)

バスはいくつも山を越えて北上し、これ以上はもう進めないというあたりまで行って、そこから市内に引きかえしていた。(村上 1991 : 168)

文中の travel far や trace far が表現として成り立つが、

(11)' \*That is all ritht far.

(12)' \*The Act is good far.

のような構造は受け入れられない。(10)、(11)、(12)に見られるような as far as の far はその後の従属節内の動詞と密接な関係があり、主節の動詞とは一般的に強い関係を持たない。ここに、as/so far as を一つの接続詞として扱う合理性がある。ところが、日本語で同様に「限り」の定訳としてよく用いられる as long as は、(14)、(15)に見るように時の概念を含むため、欧米の参考書では時の副

詞節を導くという観点にたつて記述される。この点に関して、限定的表現としては分類されていないが、江川(1991 : 398)では、「時間の制限・範囲を表す」「限定」表現として、

(14) As long as we live, our heart never stops beating.

われわれが生きている限り、心臓は鼓動を止めない。

(15) You can go anywhere as long as you're back by the time we meet.

集合時間までに戻って来さえすれば、どこへ行ってもいいです。

を挙げている。このような例における as long as の long と主節の動詞との関係を見ると、(14)では期間を意識する分だけいくらかつながりを感じられるが、(15)では直接的関係を持っているとは言えない。

### 4. 日本語の「だけ」と「限り」

前節までで、日本語で「限定」を意識させる表現、「～スルだけ～スル」と「～スル限り～スル」に対応する英語表現をみてきたが、これらの日本語表現の定義と例文を国語辞典(金田一他 1997 : 229/851) でみると、

(16) 限り：限られた範囲内。「あやまらない限り [＝うちは] 許さない」。

(17) だけ：その程度をもって限度とすることを示す。「いいだけ取りなさい・やるだけやろう」。

とあり、前者の方が「範囲」に対する意識が強いという説明になっている。同様のことはその英語の対応表現においても観察される。

まず、「～スル/デアルだけ～スル/デアル」という構造と英語の比較構文に並行性があることを観察しておく。第2部でみたように従属節に範囲を示す表現が新たに加えられるとき、限度が意識され限定的意味合いを帯びる。

(8) In this part of the city, people are as poor as they can be.

市のこの部分では、人々はこれ以上ないというほど貧しい。

(8)では、「人々が貧しくあり得る (people can be poor) だけ、人々は貧しい (people are poor) (状態にある)」という構造から、「限界」が読み取れる。また、

(9) Grandpa had taught me to write as much as I could.

おじいさんから教わって、僕はいくらか読み書きができるようになっていた。

は、「ぼくが書くことができた (I could write much) だけ書ける (write much) ように」したのは「おじいさん」なのである。ところが、(3)、(4)の文も「だけ」を用いて訳出できるが、「限界」を強く意識することができない。

(3) Hearing is just as important as speaking in English conversation.

英会話では、話すことが大切であるだけ、聞くことも大切である。

(4) Science can destroy as easily as it can create.

科学はやすやすと物を作り出せるだけ、やすやすと破壊もできる。

以上より、「欲シイ/必要デアルだけ～スル」、「デキルだけ～スル」と日本語で表現できる限界性は、英語では同等比較級の従属節内に、主節がない、「限界」を意識させる表現を加えることにより表出可能となると考えられる。

次に、「限り」について英和辞典をみると、次のような文例がほぼ共通して挙げられている (キーン他 1982 : 148)。

(18) Unless he apologizes, I won't forgive him.  
彼が謝らない限り許さない。

(19) I won't forget you as long as I live.  
生きている限りあなたを忘れない。

(20) I'll help as much as I can.  
できる限り協力するよ。

(21) It was white with snow as far as the eye could see.

見渡す限り白一色だった。

(19)に関しては、前節の(14)と同じ性格の文であると言える。また、(20)も、「できるだけ協力する」とも表現できる同等比較による構文である。(21)は、実際に目で見渡していて、より具体的に範囲を意

識させるという点で第3部で挙げた、

(10) As far as (So far as) I can see, he cannot be more than thirty.

私の見る限りでは、彼は、30を越えてはいまい。

と異なっている。(18)の例は、前出の国語辞典の例文(16)と同様の意味と考えられるが、英訳では unless が用いられている。この場合、

(18)' \*As far as he doesn't apologize, I won't forgive him.

(18)" As long as he doesn't apologize, I won't forgive him.

のうち前者は英語としては受け入れられないが、(18)" は後述するように「期間」が意識される点で時間構造は異なるが容認可能となる。Swan (1995 : 601) によると、次の(22)の文はどちらも適格であるが、(22b) は if not が except if を意味していないので受け入れられないと言う。つまり、従属節の否定的内容が主節の内容において直接の理由である場合は unless を使用することができないということになる。

(22) a. Come tomorrow unless I phone. (=... except if I phone.)

私が電話をしない限り、明日来て下さい。

b. Come tomorrow if I don't phone.

私が電話をしなかったら、明日来て下さい。

(23) a. My wife will be very upset if I don't get back tomorrow.

明日私が帰らなかったら、妻はひどく怒るだろう。

b. \*My wife will be very upset unless I get back tomorrow. (=...except if I get back tomorrow.)

明日私が帰らない限り、妻はひどく怒るだろう。

Swan の旧版 (1980 : § 610) は、A unless B という構造が受け入れられるのは、「B という状況によって阻止されないなら、A は起こる」(‘A will happen if it is not stopped by B.’) という場合であり、「B という状況が起こらなかった結果、A が起こる」(‘A will result from B not happening.’) という文では unless が使えないと

している。これは少なくとも日本語の「～シナイ限り～スル/シナイ」の時間構造を説明していて興味深い。(新版でこの説明を削除した理由は本論では直接関係しない。)「Aという状況がBによって阻止」されるということは、Aはすでに話題になった時点でそのような状況が(心理的であれ)存在していることを暗示している。また、ある状況の「結果、Aが起こる」という表現から、その時点で初めてAが起こってくることを意味している。この分析が正しいか、上記の文例で確認してみたい。

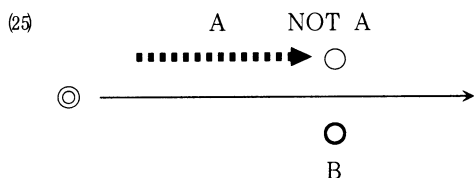
②2aにおいて「私が電話をする」まで「明日(あなたが)来る」ことに変更はない。電話があるまで「あなたが明日来る」という命題は有効である。②3aの文では「私が帰らない」という事態の結果「妻は怒る」のであるから、その時点まで「妻は怒っていない」ことになる。このことは、「私が帰らない」ことがはっきりした時点で「妻が怒る」ことを意味する。時間表現を含まない次の②4の文も検討してみよう。

②4 I'll take the job unless the pay is too low. (Swan 1995: 601)

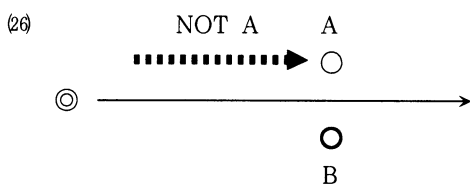
報酬がひどく安くない限り、その仕事を引き受けるつもりだ。

②4で合意するのは、現在の気持ちにおいて「その仕事を引き受けるつもり」でいるが、「報酬がひどく安い」場合に限り、その気持ちが変わるということである。すなわち、心理的にはAの状況(仕事を引き受ける)には、Bの状況(報酬がひどく安い)まで継続することになる。

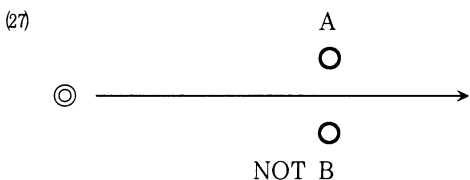
②2a、②4の時間構造を図に表すなら、次のようになる。太字は表現として表われている部分、点線は実線で示された行為を支持していることを示す。矢印の右は未来に向かい、左に現在時点をとる。



主節に否定が入っている(①8の文、NOT A unless B、)の構造は次のようになると考えられる。



ところが、②3aの文、A if NOT B、の時間構造は、②7のように、Aの状況と、Bが起こらない(ということが分かった)状況はほぼ同時であると考えられる。



日本語の「限り」の定義(①0)にある「限られた範囲内」というのは、②9、②0に見られるように、ある状況が起こるまでの範囲を指し、挙げられている例文中の「[=うちは]という注記にもこれを反映している。このことから、境界が動詞の表すある行為によって示される「～シナイ限り」を「<境界>の限り」と言及することができるであろう。

以上のように、日本語の「～スル限り」という表現に否定を持ち込んだ「～シナイ限り」は unless によって英訳することができるが、「～スル限り」が as far as または as long as と結びつくという意識は学生の間でもかなり強い。(①8から②1)の英和辞典の例を見ても、「謝らない」(①8)、「できる」(②0)、「見渡す」(②1)という表現から、そのような感覚を身につけているのかも知れない。次にこの観点から as far as、as long as について検討してみよう。

## 5. 「範囲」と「期間」

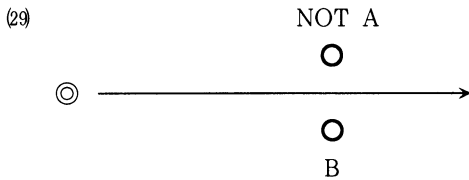
英語では if 節で表現するところを日本語では「限り」と表現できるため、as far as、as long as をともなう従属節内に動作性の強い肯定表現を持ち込んだ誤った文を作ることがある。例えば、②8 a. 私たちがそのパーティーに行く限りはあの家の人々は来ないだろう。

b. \*As far as we go to the party, nobody from the family will attend it.

c. \*As long as we go to the party, nobody from the family will attend it.

d. If we go to the party, nobody from the family will attend it.

表現の形態が異なっても、現実の状況は類似しているはずであるから、(28d) (NOT A if B) として表現できる現実は、前節でみた(28a)の文の型、すなわち(27)と大きく違わないはずである。肯定と否定はここでは重要な要因ではなく、(29)に近い構造と考えられる。



この時間構造には「範囲」も「限界」も現れていないという点から、(28a)の「限り」で日本語の文が表現しようとしているのは、時間的要因ではなく「私たちがそのパーティーに行く」という仮定の強調と考えられる。ここで焦点として限定されるのは、「そのパーティーに行く」ということ自体ではなく、「私たち」なのである。他にも多く出席するであろう人々（「範囲」）のうち、他でもない「私たち」（「限定」）が行くことに問題がある。

第4部でみた、

(29b). \*My wife will be very upset unless I get back tomorrow.

明日私が帰らない限り、妻はひどく怒るだろう。

の訳文は英文に合わせて「帰らない」に「限り」の限界を読もうとすると容認度は低いが、例えば「明日」に限定する発話であるとすると、容認される。また「妻」ではなく、社員の中の「私」が「社長」のもとに帰る、という文脈であればやはり容認可能である。

(30a). 私が明日帰らない限り、妻はひどく怒るだろう。

b. 明日私が帰らない限り、社長はひどく怒るだろう。

したがって、日本語の「限り」による節構造には、その内部のある要素を取り立てて限定する用

法があると考えられる。この場合注意したいのは、その内部の動詞に限界を知覚するのが困難であるという点である。「生きている限り」であれば、「ある限界まで生きる」ことができるが、「パーティーに行く限り」では、「ある限界までパーティーに行く」というのは考えられない状況である。このように、動詞自体が「限り」と関係せず直接時間構造に関与しない「～スル限り」のような限定表現をここでは便宜上、「<限定>の限り」と呼ぶことにしたい。

日本語の完了相又は過去時制をもつ「～シタ限り(では)」にもまた、as far as, as long asの句で表そうとした誤文の例がある。

(31a). 私の調べた限りでは、この句については辞書には何の説明もなかった。

b. \*As far as I checked the phrases in some dictionaries, there were no comments on their uses.

c. \*As long as I checked the phrases in some dictionaries, there were no comments on their uses.

この訳文は、普通の口語として表現するなら、

(31d). I checked the phrases in some dictionaries, but I could find no comments on their uses.

となるところである。次の文では翻訳者はonlyをとまなう限定節でこの限定部分を訳出している(下線は引用者)。

(32) 例えば私が調べた限りでは、漱石が甘えという言葉を使ったほとんど唯一の場合は夫婦関係についてであって、このことは上述した点を証明すると言える。(土居 1971 : 90)

For example, almost the only case I can find in which Natsume Soseki uses the word is in connection with the relation between husband and wife, which tends to support what I have already said. (Doi 1973 : 81)

寺村(1984 : 211)の指摘にもあるように、「限り」という名詞を伴う副詞節の構造では、「～スル限り」でも「～シタ限り」でも意味の変わらないものがある。確かに、

(33) As far as I could see [tell], everyone was satisfied.

私の見たかぎりでは、みんな満足していた。

(マケーレブ他 1988 : 169-170)

のような文においては、「見るかぎり」でも同じ英文として訳出可能と思われる。しかし、次の(34) bのような場合は同等比較表現では表現できない。

(34) a. 私の 見た/見る かぎりでは、何の異常もみとめられなかった。

b. 私の 調べた/調べる かぎりでは、何の異常もみとめられなかった。

一般に英語の A as far as B の B 節内には状態性の強い表現が要求される。イディオムとみなされる as/so far as ... am/is/are concerned (11) と as far as ... go/goes (12) は、慣用的な形式を取っていてもこれらの節は状態表現である。その他、A as far as B の far が A 節内の動詞と無関係に用いられる例では、ほとんどが認識動詞を含む表現が用いられる。すでに見た、as far as (so far as) I can see (10)、as far as the eye could see (21) の他にも次のような例がある。

(35) As far as I can make out, you and this madman Cadogan have witnessed a murder and just run away.

私に分かるかぎりでは、あなたとこの狂人カドガンとは殺人を目撃してたちまち逃亡されたようですね。(石橋 1961 : 106)

(36) Their life, so far as they knew, was as it had always been.

彼らの生活は、彼らの知る限りでは、それ以前のいつもの通りだった。(石橋 1961 : 106)

さらに、A as far as B においては、A と B の持つ時間はほぼ同時である。この表現では far は程度を表す副詞として B 節内の動詞の意味が及ぶ範囲を示しているのである。このような状態性の強い動詞と far による限界表現を「<範囲>の限り」と言ってもよいであろう。

この far による表現が、(心理的にであれ) 遠方の境界を表すのに対して、near による次のような推測の動詞による「限界」表現もよく見られる形式である。このようなものには、「核心に迫る」「限り」という意味合いがあると考えられる

(下線は引用者)。

(37) As near as I could figure, the petite girl was troubled or angry and the big girl was trying to console her — there, there, now. (Murakami 1989 : 157)

...、どうやら小柄な女の子が悩むか怒るかして、大柄の子がそれをまあまあとなだめているような具合だった。(村上 1991 : 152)

次に A as long as B についてみても、同様に、B 節内には状態性の強い表現が来ることが予想される。節内の long は、far が「範囲」「広がり」を表すように、「期間」「長さ」を意味するからである。すでにみた、(14) の例文では「生きている限り」とあるので、かなりの長い期間を予想させる。他に状態性の強い動詞による例は、

(38) As long as I kept my things in order, he never interfered, so I probably had an easy time of it. (Murakami 1989 : 29)

こちらが身のまわりを清潔にしている限り、彼は僕に一切干渉しなかったから、僕としてはかえって楽なくらいだった。(村上 1991 : 29)

(39) This does not matter so long as the relationship with the other is a good one, but should a crack develop in it, the feeling suddenly becomes an intolerable burden. (Doi 1973 : 89)

このことは相手との関係がよい限り問題は無いが、いったん関係にひびが入ると、途端にそれが耐えられない負担と変わる。(土居 1971 : 100)

など、かなり多く見られる。

ところが、第3部の(19)では「戻って来さえすれば」となっているため状態性は訳文には出ていない。この例でもやはり「集合時間まで」の状態が意識されていて、

(19) You can go anywhere as long as you're back by the time we meet.

集合時間までに戻っている限り、どこへ行ってもいいです。

と「限り」を使って訳出できる。この文に動作性の強い come を用いて、



(15) "You can go anywhere as long as you come back here by the time we meet.  
 集合時間までに戻ってくる限り、どこへ行ってもいいです。

としても英文の方の容認度は変わらない。日本語の方も「集合時間までに」という期限が示されているため「戻ってくる」に「限界」を読むことができるので容認される。(15)と同様に、「条件」としての傾向を持つと考えられるものに、

(40) a. You can take my car as/so long as you drive carefully. (Swan 1995 : 75)

b. '安全運転をする限り、私の車を使ってよろしい。

(41) a. You can take my car as long as you don't smash it up. (Swan 1980 : § 76)

b. ぶっこわさない限り、私の車を使ってよろしい。

などがある。このような「条件」(on condition that)と解される英文の副詞節には(40a)のような動作性の強い動詞を用いることは許される。ところが、日本語では、(40b)のように「ある限界まで」「安全運転する」という意味では容認度が落ちる。一方、(41)bでは、否定表現であるため「車をぶっこわす」までという期間が意識されることになり、受け入れられる。このように“on condition that”の意味を持つ as long as による表現においては、「範囲」が意識される場合は「限り」と訳出可能であるが、すでにみたように日本語の副詞節内に取り立てることができる要素がない場合は、「～するなら」という形で「条件」を示すことになる。

次に、「期間」を表す as long as の節において、節内に否定表現が含まれるものを考えてみる。

(42) As long as they made no trouble, they could continue in their position. (Sakaiya 1995 : 171)

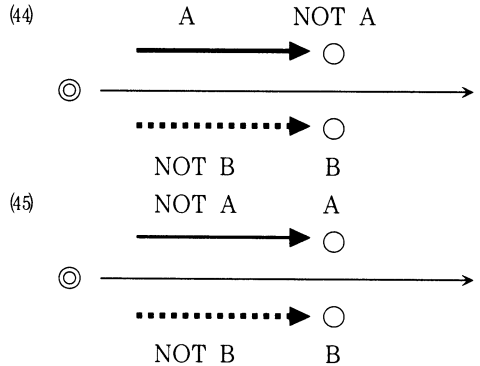
(太政大臣や右大臣以下は) 邪魔にならないかぎりおいておけばよい。(堺屋 1991 : 208)

(43) In Japanese society, waga-mama is not, on principle, permitted, but ki-mama, interestingly enough, is not frowned upon so long as it does not become waga-

mama. (Doi 1973 : 99)

日本の社会ではわがままは原則として許さないが、気ままはわがままにならない限り許すということは面白いことである。(土居 1971 : 114)

これらの文に、(15)や(40)と比べて「期間」の概念が意識されるのは、主節においても状態性が感知されるためである。(42)を A as long as NOT B、(43)を NOT A as long as NOT B として図示するなら、



となる。この表現形式は、前節でみた(29)、(26)と時間構造においては同じであるが、as long as が NOT B の状況の継続性を強調しているという点と、主節の状況が B に至るまで実際に存在するという点で異なっている。A という事態は、「起こる」のではなく「起こっている」のであり、NOT A という事態は、(43)では「空白」ではなく、「気まま」が「許されて」存続している。

以上でみたように、as long as による「限界表現」には、「期間」を比較的強く意識する「<期間>の限り」と、発話時から後の「期間」内に継続する行為を「条件」とする「<条件>の限り」を区別できる。

## 6. ま と め

英作文において、動詞表現に後続する「限り」はここでみたように、英語では様々な副詞節で表現される。「だけ」については第4部でまとめたので、ここでは「限り」の多対応について総括してみる(表1)。

以上、日本語の広義の「限定」を表す表現につ

表1 「限り」の対応

「スル限り」	IF	限定	節内の動詞以外の要素を限定する
	AS FAR AS	範囲	能力・知覚・関係などの及ぶ範囲を限る
	AS LONG AS	期間	ある状況が維持される期間を限る
	AS LONG AS	条件	節内の動詞の意味する維持可能な行為または、選択範囲のある項目を限定する
	その他		
「シナイ限り」	IF NOT	限定	節内の動詞以外の要素を限定する
	UNLESS	境界	ある状況が中止される境界となる行為を提示する
	AS LONG AS NOT	期間	ある行為の不在による状況を維持する期間を限る
	AS LONG AS NOT	条件	ある行為の不在による状況を維持することを限定する
	その他		

いて考察してきた。日本語の「限り」は基本的に「境界」を表し、文脈により「範囲」を表している点、英語の同等比較級と対照的である。英語のこの構造の基本的概念として「範囲」、「期間」ということを学習書は明言しているにも関わらず、英語を書く際、ここに動作性を許してしまうのは、否定による表現内の動作動詞、日本語「限り」の取り立て詞的性格が関係していると考えられる。

慣用的用法としての基本的な言い方で表現できる場合はそれを優先するべきであろうが、論理的で筋の通った英文を書くためには、日本語の訳語に依存するのではなく、それぞれの表現の持つ用法の意味をメタ言語として概念化して把握する必要があると考えられる。英文を構成する規則を無視するような学習姿勢は、英語の習得に時間を要するだけであろう。闇雲に類推と勘に頼るだけの外国語学習は時間がかかるのみではなく、実りも

少ない。外国語学習は、日本語と並行しない現象を論理的に効率よく学ぶための言語地図が頭の中に書き込まれる作業でなくてはならない。

- \* 本稿は、言語文化学会第9回大会（平成9年10月10日、於東海女子短期大学）における口頭発表の内容に、加筆・訂正を施したものである。席上、建設的な助言、質問をして下さった方々に感謝したい。
- \* 本稿の執筆にあたり、東海女子短期大学助教授カーク・ウィルトシャイアー（Kirk Wiltshire）氏に例文の受容度に関して貴重な意見を頂いた。ここに記して謝意を表したい。
- \* 本稿は、平成9年度大阪女子短期大学研究助成費の交付を受けて行った研究成果の一部である。

## 引用文献

Capote, Truman. 1991. *One Christmas and I Remember Grandpa*. Edited with Notes by Reizo Yoshikawa and Teruhiro Ishiguro. The Eihosha Ltd.

カポーティ, トルーマン. 1988.『おじいさんの思い出』(村上春樹訳). 文藝春秋.

- The Concise Oxford Dictionary of Current English*. 1982. Oxford University Press.  
土居健郎. 1971. 『「甘え」の構造』. 弘文堂.  
Doi, Takeo. 1973. *The Anatomy of Dependence*. Translated by John Bester. Kodansha International.  
石橋幸太郎編. 1961. *Question-Box Series VIII Participle, Conjunction, Word Class*. 大修館書店.  
キーン、ドナルド／羽島博愛監修（山田晴子／伊良部祥子編集）. 1982. 『会話作文英語表現辞典』. 朝日出版社.  
金田一京助他編. 1997. 『新明解国語辞典』第5版. 三省堂.  
村上春樹. 1991. 『ノルウェイの森』（上）. 講談社文庫.  
Murakami, Haruki. 1989. *Norwegian Wood 1*. Translated by Alfred Birnbaum. Kodansha International.  
堺屋太一. 1991. 『日本とは何か』. 講談社.  
Sakaiya, Taichi. 1995. *What is Japan?* Translated by Steven Karpa. Kodansha International.  
山岸勝榮編. 1991. 『ニューアーカー和英辞典』. 学習研究社.  
安井稔. 1982. 『英文法総覧』. 開拓社.

### 参 考 文 献

- 江川泰一郎. 1991. 『英文法解説』（改定三版）. 金子書房.  
イエスペルセン, オットー (Jespersen, Otto). 1963. 『英文法エッセンシャルズ』（中島文雄訳）. 千城.  
マケレーブ, ジャン／岩垣守彦. 1988. 『アメリカ人語PART 2：微妙な、ほんとに微妙な英語感覚』. 読売新聞社.  
Swan, Michael. 1980. *Practical English Usage*. Oxford University Press.  
Swan, Michael. 1995. *Practical English Usage, Second Edition*. Oxford University Press.  
寺村秀夫. 1984. 『日本語のシンタクスと意味』. くろしお出版.  
Zandvoort, R.W. 1975. *A Handbook of English Grammar, Seventh Edition*. Maruzen.